

C-54 麻疹の ARDS に対する呼吸管理

国立成育医療センター 手術・集中治療部

穂吉眞之介、中川 聡、尾崎由佳、伊東祐之、田中 基、松本 弘、
鈴木康之、宮坂勝之

【はじめに】麻疹の肺炎は ARDS へと発展することが多く、その致死率が高い。国立小児病院および国立成育医療センターの ICU では、重症の ARDS 症例に対して、通常の人工呼吸（CMV）に加えて、一酸化窒素吸入療法（iNO）、高頻度振動人工換気法（HFV）、膜型人工肺を用いた体外循環補助（ECMO）などを行っている。当 ICU で経験した 麻疹の ARDS 症例について、選択した治療法とその効果を検討したので報告する。

【対象と方法】1997～2002 年に麻疹の ARDS で、通常の人工呼吸以外に iNO、HFV、ECMO のいずれかが行われた症例は 9 例で、これらの症例を後方視的に検討した。

【結果】症例の月齢は 11～49 か月で、全症例とも麻疹ワクチンは未接種だった。全 9 症例の転帰は、生存 4 例、死亡 5 例、現在治療中 1 例である。iNO は 7 例、HFV は 6 例、ECMO は 6 例に行われた。CMV + iNO で生存した症例はなかった。HFV 管理中に改善・生存した症例は 6 例中 2 例で、残りの 3 例は ECMO 管理を必要とした。HFV で生存した症例は成人用 HFV 人工呼吸器：R100 を使用したものだった。ECMO 管理に至った症例 6 例中、生存は 2 例、死亡は 4 例だった。

【まとめ】麻疹の ARDS は重症化する可能性が高い。その呼吸管理では、CMV だけではなく、HFV や ECMO を必要とすることが多い。成人用 HFV 人工呼吸器は麻疹の ARDS の選択肢として必須の治療技術であり、HFV で救命できない症例への ECMO の適応は、その有効性も含め、引き続き検討が必要だと考えられた。